

1月のどきどき

今年の初セリは

1月11、12日にホクレン南北海道家畜市場で肉牛の初競りが行われ、道内各地から1700頭を超える肉牛が集まりました。

町内からは20戸の生産者が出品し、36頭が取引成立。町内産肉牛の評価は高く、黒毛和種（去勢）の取引平均額は94万6865円と昨年よりも10万円程の高値が付き、幸先の良い滑り出しとなりました。



防災意識の向上に

胆振東部消防組合が主催した防火・防災作品コンクールにおいて、追分中学校2年生の大橋里穂さんと富塚芽生さんのポスターが入賞。18日、胆振東部消防組合消防本部藤原一消防長より賞状と記念品が贈呈されました。

藤原消防長は、「日頃から防火・防災について考えてくれている作品で嬉しかった」と2名の受賞をお祝いしました。

だじゃれ飛び交う講演会

22日、追分公民館で安平町合併10周年記念事業「伊奈かつぺい講演会」が行われ、町内外から240名の聴衆が集まりました。

津軽弁を駆使した独特な語り口とだじゃれで笑いを誘うと、会場が沸き上がり、あっという間の85分となりました。

※前日に安平町入りした伊奈かつぺいさんを密着取材しました。その様子を現在あびらチャンネルで放送中です。



お別れの言葉を述べる
米村園長



38年間ありがとう

28日、追分公民館で安平町立追分幼稚園閉園記念式典が行われ、閉園を惜しむ卒園児や園関係者など多くの方々が参列しました。

昭和54年、追分地区の幼児教育の要として設立され、これまで879名もの卒園児を送り出してきた追分幼稚園。3月をもって、38年という長い月日に終止符を打つこととなります。

式典は、豊島教育長による閉園宣言に続き、瀧町長の辞や来賓あいさつの後、幼稚園運営に深く関わってきた方々への感謝状が贈呈され、追分幼稚園米村昭則園長より「元気に挨拶する姿、元気に遊ぶ姿を毎日見ることができて幸せでした。子どもたちが新たな環境で健やかに育っていくことを見守っていききたい」とお別れの言葉を述べられました。



々々への感謝状が贈呈され、追分幼稚園米村昭則園長より「元気に挨拶する姿、元気に遊ぶ姿を毎日見ることができて幸せでした。子どもたちが新たな環境で健やかに育っていくことを見守っていききたい」とお別れの言葉を述べられました。

終盤、卒園児で和太鼓奏者しんたさんの演奏や在園児らによる歌の披露が行われ、式典に花を添えました。